

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えつぼJr.		
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	豊富な地域資源を活かした支援がされている。	活動を事業所内に限定せず、公園、コミュニティセンター、体験活動施設など、地域の環境を活用した支援を行っている。 また、人的資源も豊富で、福井大学の協力でのプログラミング教室や、薬草講座、絵画、音楽、栽培、科学など、多岐にわたる体験活動を行っている。 社会の中で過ごす力を育てることを目的のひとつとしている。	活動先で、どんな力が育つか、目的を明確にして活動する。
2	専門的な資格を有するスタッフが常駐し、質の高い療育を行っている。 作業療法士による専門的支援を軸に、アセスメントから支援の手立てを計画的に行う。	元教員、保育士の他、公認心理師、精神保健福祉士、作業療法士、認定ABAセラピスト、これらがそれぞれの見地から療育の手立てを提案し、専門的支援を実践している。	毎日の朝礼時、本日来所されるお子様の確認と、専門的支援の方法について確認共有し、その日の療育で実践する。
3	「びこっこ」を用いた日々の支援の記録、保護者への共有、関係機関との連携を行っている。	支援の振り返りや、モニタリングで職員全体で見返して共有できる。 ご家庭の様子を月一回、教えて頂く。 学校や他事業所などと定期的に情報共有を行い、より望ましい支援策を考えている。	学校や医療保険機関との連携、情報共有への活用する。 長い目で見て蓄積データから育ちを見れる。 モニタリングや個別支援計画の更新に記録を生かす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の質は高いが、成果が外から見えにくい。	支援が行動の背景に働きかけるため、大きな変化より「安定してできるようになる」ことが求められる成果になる。そのため取り組みの良さが分かりにくい。 保護者や地域に向けた定期的な発信の場を作ったり、保護者会等の横のつながりを設けたりする。	「できなかったことがどう変化したか」を記録に明確にする 専門的支援の内容をわかりやすく説明する、など成果の見える化に取り組む。
2	職員の負担が大きくなりやすい。	1人ひとりにあわせた支援や連携を大切にするため、職員の経験や努力に頼りやすい面がある。	支援の進め方を共通化する。 業務量の見直し(DX化、マニュアル化)を行うことで、支援の質を保ちながら、継続できる体制づくりを進める。
3	立地の点で、風水害、降雪、熊など、対応すべき事態の発生リスクが高い。 送迎サービスが細やかに対応出来ない。	山間地域なので、飲み込むべきリスク、対策は考えて、メリットを享受する。 立地の面で、送迎について細やかな対応が難しいのが現状である。	行政への協力依頼。 地域で暮らす方々との日々のコミュニケーションを取る。 事業所内だけでなく、外部への委託も必要。